

1. 科目名 (単位 数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1107 GELA1107
2. 授業担当教員	安次嶺 隆幸		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	★ノート指定 ツバメノートA4品番A5008 JAN:4968796311105 一冊を準備しておくこと。毎回これが出席、課題レポートに使用します。毎回プリント課題を配布しますので、このノートに貼り、授業後に提出します。		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>★教科書 山口隆正/宮田公治/田中洋子/福嶋美知子/秋山智美 著「文章表現の基礎技法」 八千代出版株式会社 2017 年。安次嶺隆幸著「世界一のクラスをつくる 100 の格言」 明治図書出版 2013 年</p> <p>★参考書 秋山智美著「学生のための 文章表現法」八千代出版株式会社。安次嶺隆幸著「礼儀でまとめる学級づくり」 東洋館出版。安次嶺隆幸著「一瞬で授業に引き込むプロの技」学陽書房</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 積極的の態度 (発言、討議、取り組み等) 総合点の 30% 2 レポート (小課題を含む) 総合点の 70% <p>上記の他に、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>★授業の視点「書くことは、聴くこと、受け入れること、考えることから始まる！」</p> <p>読むこと、聴くこと、話すこと、そして書くことは人間の本質である。人と協力して生き、社会を形成する生き物である人間にとって、表現能力とは、他者との共生するための能力であり、人と人との暮らしていくための優しさや明るさや思いやりを含めた能力のことなのである。「書くこと」は「他者に自分の考えを伝えること」である。それは人間の必須のスキルだといえる。</p> <p>★授業の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサシメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教育に携わる専門性を身につける大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。 <p>★メッセージ</p> <p>本講座では、書く前に「聴く」、「考える」、「共有する」、「展開する」、「まとめる」という 5 段階の作業を毎授業で行います。これを繰り返すことで、自分の考え、他者の考えを認め合う広い心を育むことができるようになります。また、様々な場面指導での意見交換から自分の思考を磨き、教科書の格言の文章を読み、ポイント押さえ、「書く力」が自然に習得できます。しっかりと毎回の授業の人の意見を書き込み、取り入れる心を養ってください。それが自分の文章表現になっていきます。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	本講座の意義、目的、方法について、シラバスの説明、班編制、授業の受け方の説明。自己紹介文の作成と提出。 基礎編 第 1 章 文章を正しく書く～教科書①問題 課題: 世界一のクラスをつくる 100 の格言より～①～⑤ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。自己紹介文を考えてくること。
		事後学習	「私の長所と短所」「私の趣味」で 400 字～800 字で作文を書く。
第 2 回	基礎編 第 2 章 原稿用紙の使い方 教科書②問題 課題: 世界一のクラスをつくる 100 の格言より～⑥～⑩	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。

	について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事後学習	「私の高校時代」「アルバイト」「心に残っている言葉」について 400 字～800 字で作文を書く。
第 3 回	基礎編 第 3 章 正しい表記を知る 教科書③問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～⑪～⑮ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表できるようにしておく。
		事後学習	「私が尊敬する人」「私の信念」「出会い」について 400 字～800 字で作文を書く。
第 4 回	基礎編 第 4 章 文章作成上の注意点 教科書④問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～⑯～⑳ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	「余暇の過ごし方」「10 年後の自分」「私の人生観」について 400 字～800 字で作文を書く。
第 5 回	基礎編 第 5 章 文章の基本的な書き方 教科書⑤問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㉑～㉓ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	「私と読書」「私の家族について」「部活動について」について 400 字～800 字で作文を書く。
第 6 回	応用編 第 6 章 小論文を書く [1] 教科書⑥問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㉔～㉗ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	「子どもに携帯電話を持たせてよいか」「夫婦共稼ぎをどう考えるか」「インスタント食品の功罪」について 400 字～800 字で小論文を書く。
第 7 回	応用編 第 7 章 小論文を書く [2] 教科書⑦問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㉘～㉚ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	演習の課題について、校正する。
第 8 回	応用編 第 8 章 小論文を書く [3] 教科書⑧問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㉛～㉝ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	演習の課題について、校正する。
第 9 回	応用編 第 8 章 小論文を書く [4] 教科書⑨問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㉞～㉟ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	演習 1～11 で選択した以外から一つ小論文を書く。
第 10 回	応用編 要約をする 教科書⑩問題 課題：世界一のクラスをつくる 100 の格言より～㊱～㊴ について、音読、ディスカッション、要旨を書く。	事前学習	教科書を概観してくる。上記の文を発表出来るようにしておく。
		事後学習	自分や他者の小論文を要約する。
第 11 回	まとめ [レポート・論文の書き方] 1 「テーマ型①～⑩」	事前学習	レポートの課題について考えてくる。
		事後学習	課題について書く I。
第 12 回	まとめ [レポート・論文の書き方] 2 「将来の目標」	事前学習	レポートの課題について考えてくる。
		事後学習	課題について書く II。
第 13 回	まとめ [レポート・論文の書き方] 3 「過去の経験」	事前学習	レポートの口頭発表原稿を完成する。
		事後学習	口頭発表会 1 のリハーサルをしてくる。
第 14 回	レポートの口頭発表会 1 ・評価・交流「10 年後の自分」 or 「学生時代に力を入れたこと」	事前学習	評価項目について考えてくる。
		事後学習	自己評価、他者評価を踏まえて校正する。
第 15 回	レポートの口頭発表会 2 ・評価・交流「10 年後の自分」 or 「学生時代に力を入れたこと」	事前学習	口頭発表会 2 のリハーサルをしてくる。
		事後学習	15 回のまとめを書く。